

令和元年度 日向市立日向中学校ビジョン実現のための重点目標と数値目標に関する評価

4段階評価 4：たいへん良い 3：良い 2：やや悪い 1：改善の必要がある

番号	重点目標	ビジョン実現のための重点目標と目標達成のための手段	項目	数値目標	自己評価	評価の説明と今後の対策	学校運営協議会		
							意見等	評価	
1	主体的な学びの推進	確かな学力の定着を図るための「わかる・できる」授業の充実	「わかる、できる」授業の実践	生徒アンケートの「授業がわかる」の項目において、4（大変良い）がすべての学年において半数を超え、肯定的意見がすべての学年で9割を超える。	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業がわかる」と回答した生徒は、9割を越えており、授業改善の取組は、成果を挙げている。年度当初に確認した共通実践事項がどの授業でも実践されていることも成果につながっている。教師相互の「ちょこっと参観」等の取組を工夫しながら、今後も「わかる、できる」授業づくりを目指していきたい。 ○ 2年生の結果を1年次のものと比較すると、全体で県との差が8.2→62.7に伸びており、他の学年においても全体では平均を超えている。年度末の「まとめ」の取組が成果となったといえる。本年度も同様の取組を行い、次年度の学力調査につなげたい。次年度は、本年度の主題研究で確認した「読解力」の向上に向けた取組を徹底し、「読解力」、学力の向上に努めていきたい。 ○ 地域人材の活用を教育課程にしっかり位置づけ、企業や事業所、高校生などの協力を得て教育活動を充実させることができた。「みんなで何かをすることは楽しい」と回答した生徒は96%おり、キャリア教育につながる生徒主体の活動を各学年で計画的に取り組みすることができた。今後も継続していきたい。 ○ 「働くことや職業に感心をもち、将来の夢や職業を思い描いている。」と回答した生徒は89%いるが、将来就きたい職業について思い描けない生徒もいる。目的を明確にして行事に取り組みせたり、家庭の中でも勉強する意味や職業観などについて話題にするような啓発をしたりしていきたい。 	多くの生徒が「授業がわかる」と回答しており、学力も伸びているという状況からすると、学校の自己評価が低いといえる。授業改善や読解力の向上、テスト対策等にも計画的に取り組みされてきた成果であり、自信をもって評価をしてほしい。将来の職業や夢を描いている生徒の割合が高いことは、すばらしい。今後も子どもたちの夢を育む教育活動の充実や継続的な指導を期待したい。新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休業となってしまったが、子どもたちの生活リズムや健康、学習等の家庭での過ごし方が気になると。	4	
			確かな学力の向上	みやざき学習状況調査、全国学力学習状況調査において、どの学年も県平均、全国平均を超える。					
			地域人材等を活用した体験活動の充実	日向市キャリア教育センターと連携した「夢をはぐくむ講演会」等の活動をとおして、生徒の体験活動を充実させ、生徒アンケートの「みんなで何かをすることは楽しい」の項目において、肯定的な意見が7割を超える。					
			キャリア教育の推進	生徒が自らの発達の段階に応じて将来の夢や目標を設定し、「将来の目標を明確にして今必要なことについて努力している。」かについて、肯定的な意見が7割を超える。					
2	協同的な人間関係の構築	「豊かな人間性」の育成を図るための道徳の授業の充実	相手の気持ちや考えを大事にする生徒の育成	道徳の授業の充実を図るとともに、すべての教育課程で道徳教育を充実させることで、生徒アンケートの「相手の気持ちや考えを大事にする」の項目において、肯定的意見がすべての学年で7割を超える。	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「相手の気持ちや考えを大事にする」と肯定的な回答をした生徒は、97%おり、道徳の授業や学級活動、日常の指導をとおして、相手の気持ちや考えを大事にする生徒の育成が図られている。今年度から開始した特別の教科としての授業の充実や評価の工夫について、今後も継続的に取り組んでいきたい。 ○ 学期1回の人権・同和教育の授業を各学年で計画的に実施することができた。ほとんどの生徒が、「いじめや差別を許さない立場で行動しようとしている」と回答している。互いに「認め、支え合う」ことの大切さに気付かせる授業実践や毎月のいじめアンケートをもとにしたきめ細やかな指導等を今後も行っていく。 ○ 「相手の気持ちや考えを大事にしながら、学習や様々な活動をしている」と回答した生徒が、97%であった。各種専門委員会の「計画・実施・評価・報告」の一連の流れを生徒会執行部主導で行ったり、自分が取り組むべき係活動に自発的に取り組んだりする生徒が増えてきた。次年度に向け、現生徒会執行部の活躍の幅をさらに広げていきたいと考えている。 	子どもたちの地域でのあいさつはとても良い。頭を上げ、顔をしっかりと見て元気よくあいさつする生徒が多く、大人が見習うべき点である。また、子ども連れであると自然に声を掛けてくる生徒もいることにも好感もてる。様々な教育活動をとおして子どもたちが素直に育っていることがわかる。生徒は伸びる素地ができているという点で、今後も成長が期待できる。	4	
			「認め、支え合う」ことの大切さに気付かせる特別活動の充実	人権教育の充実 生徒会活動の活性化					学期1回の人権・同和教育の授業を各学年で実施し、生徒アンケートの「いじめや差別を許さない立場で行動しようとしている」において、肯定的な評価が7割を超える。
				学年プログラム委員会や各委員会活動を充実させ、生徒アンケートの「相手の気持ちや考えを大事にしながら、学習や様々な活動をしている」の項目において、肯定的な評価が7割を超える。					
3	命と健康を大切に する 教育の充実	命を大切にするための安全教育や防災教育の充実	食育指導の充実	望ましい食生活の基本を理解し、生徒アンケートの「望ましい食習慣を身に付けている」において、肯定的な評価が、8割以上を超える。	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者と評価の差はあるものの、「望ましい食習慣を身に付けている」と回答した生徒は、9割を越えている。毎日の給食指導や学年ごとの講師を招いた食育の授業、「弁当の日」の実施、家庭科の授業など、生徒自身が自分の食事について関心をもち、日常に生かせるような教育活動を行うことができた。 ○ 地震(津波)、火災を想定した訓練を計画どおり実施し、講話を聞いたり、「みやざきシェイクアウト」に参加したりすることができた。「校外で災害に遭遇した時、避難場所を言える」生徒は、まだ十分でなく、取組が必要である。 ○ 係や交通安全協会の点検で、駐輪の際の二重ロックがされていない自転車が半数ほどあった。整備不良の自転車はないものの、反射板のない自転車も見られた。地域から自転車のマナーに関する苦情もあることから、登下校の際の交通安全マナーの徹底を含め、生徒の意識をさらに高めていきたい。 ○ 「自己の健康保持推進できている」と回答した生徒が、87%である。毎日の生活の中で自分にあったリズムをつくり、健康管理に気をつけようという意識が向上してきている。 	南海トラフ地震による被害を想定した場合、命を守るためには、学校や家庭、外出場所などどこにおいても避難場所の判断ができる力は必要である。防災教育の充実や、家庭・地域と連携した地域防災訓練などへの参加が望ましい。日向中学校付近の道路はなかなか広くなれない状況があり、行政の取組が必要である。生徒の登下校の自転車のマナーについては、T字路等の一時停止が気になる場面がある。二重ロックと合わせて指導を加えてほしい。	3	
			防災教育の充実	年4回の避難訓練の実施し、生徒アンケートの「校外で災害に遭遇した時、避難場所を言える」において、全員が言える。					
			健康を大切にするための食育指導や保健指導の充実	登下校の際の交通安全マナーの徹底					自転車通学生徒全員が、駐輪で二重ロックをするとともに、整備不良の自転車を0にする。
				保健指導の充実					自らの健康課題について意識し、生徒アンケートの「自己の健康保持推進できている」において、肯定的な評価が8割以上を超える。
4	家庭・地域との連携	開かれた学校づくりのための家庭や地域への情報発信の充実	家庭や地域と連携した教育活動の充実	自己評価アンケートで「家庭と学校が連携できている」と感じている保護者が9割を超える。	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家庭と学校が連携できている」と回答した保護者は8割以上である。今後も学校生活の向上や進路相談、学校参観日や懇談会等をとおして、生徒の成長や卒業後の進路実現につながる連携を図っていきたい。 ○ 各種通信等の定期的な発行やホームページの更新をとおして、家庭や地域に情報発信をしてきた。今後も継続した取組によって、地域に開かれた学校として、教育活動の充実を目指していく。 ○ 学校運営協議会を4回開催し、いただいた意見を生徒の地域でのボランティア活動やSNS等の家庭への啓発活動の推進等に生かすことができた。 ○ これまでこ塩見・富高小学校との三校合同研究会を4回実施した。今後も3校で連携し、「子どもの居場所づくり」としての指導方法の改善や「絆づくり」としての生徒の主体的な活動の推進に取り組んでいく。 ○ 教育関係機関との連携をとおして、個別の支援が必要な生徒の支援を充実させ、悩みを抱える生徒や不登校等の生徒の状況を改善させることができた。今後もSAやSC、SSW、児童相談所、適応指導教室等との連携を推進し、不登校等の生徒の支援を図っていききたい。 	アンケートの結果から家庭と学校が連携できていると感じている保護者が多い。日向中学校には、安心して子どもを預けられる環境があるといえる。学校運営協議会での意見を基に、地域でのボランティア活動に参加する生徒が増えたことは、評価できる。子どもたちは、地域の行事に参加するだけでなくボランティア活動等で地域の方と顔を合わせて知り合うことで地域とのつながりが強くなる。将来、地域に戻ってくる子どもが育つことにつながると思う。	4	
				学校だよりや保健だより、学年通信を月1回以上、学級通信を週1回以上、ホームページの更新を行事ごとに行う。					
				学校運営協議会を年4回開催し、地域の声を学校運営に生かす。					
		小学校との連携	日向中学校区小中一貫教育研修会を年4回実施し、すべての生徒にとって「魅力ある学校づくり」をめざす。						
		学びの機会を広げるための関係機関との連携	SC、SSW、児童相談所、市子ども課などの関係機関と連携した支援会議等を個に応じて開催し、特別な支援が必要な生徒や不登校生徒の支援を推進する。	4					